

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 木曜日・4校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間の科学(生活環境と病気) Human Sciences (environment and diseases)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:田口 尚 /Eメールアドレス:taguchi@nagasaki-u.ac.jp /研究室:医学部第二病理学教室 /TEL:095-819-7053 /オフィスアワー:電子メールにて質問を受け付けます。内容に応じて担当講師に転送します。			
担当教員(オムニバス科目等)	田口 尚、アリファ・ナズニン、西野友哉		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業のねらい:ヒトの体に病気を起こす原因(病因)となるもののうち、体外に由来するものを生活環境との関連から学ぶ。病因を知ることによって、環境を守ることを理解し、健康に対する意識を高めることを目的とする。</p> <p>授業方法:項目別に担当者が講義を行う。このコースでは、アジア諸国の環境問題と病気の発生について、英語による講義も行う予定である。</p> <p>授業到達目標:栄養を含めた生活環境と身体の異常を考える糸口を学ぶ。代表的な環境あるいは栄養障害に起因する病気について、ひとつは説明ができ、それに対する対策を自分の意見として発表できることを目標とする。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>授業内容(概要)</p> <p>ヒトに病気を起こす原因を環境の面から全体から総括的の解説し、個別の状況、例えば、化学的要因、物理的要因、生物的要因などにまとめて、具体的事例をテーマとして取り上げ、それぞれに討論しながら問題点や対策を考えていく。特に、東南アジアを中心とした外国の実態と対策についても学ぶ。また、栄養問題については、全エネルギーの不足状態から、各栄養素での個々の不足や過剰が体にどのような影響を与えるかを学ぶ。</p>			
第1回 (2008/10/2)	生活環境と病気:序論	田口 尚	
第2回 (2008/10/9)	化学的因子	田口 尚	
第3回 (2008/10/16)	物理的因子	田口 尚	
第4回 (2008/10/23)	生物的因子	田口 尚	
第5回 (2008/10/30)	環境汚染と疾病:公害病	田口 尚	
第6回 (2008/11/6)	Natural environmental pollution and diseases (1)		Arifa Nazneen
第7回 (2008/11/13)	Natural environmental pollution and diseases (2)		Arifa Nazneen
第8回 (2008/11/20)	Effects of environment on human sex organs		Arifa Nazneen
第9回 (2008/11/27)	Environmental problems and diseases in Asian countries (1)		Arifa Nazneen
第10回 (2008/12/4)	Environmental problems and diseases in Asian countries (2)		Arifa Nazneen
第11回 (2008/12/11)	栄養と健康(1)	西野友哉	
第12回 (2008/12/18)	栄養と健康(2)	西野友哉	
第13回 (2009/1/8)	栄養と健康(3)	西野友哉	
第14回 (2009/1/15)	それまでの講義のまとめ(試験を含む)	田口 尚	
第15回	全体討論	田口 尚	
キーワード			
教科書・教材・参考書	適時、プリントを配布し、スライドなどを用いて講義する。		
成績評価の方法・基準等	○ 定期考査50%、レポート30%、授業中の課題に対する取り組み状況20%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			